

施策マネジメントシート(平成24年度の振り返り、総括)

作成日 平成 25 年 7 月 1 日

基本目標	II	豊かな自然と共生するまち	主管課	名称	地域整備課
				課長	増田 伸之
施策	15	道路網の整備	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名		対象	意図
			1	2		
①町民		①安全で円滑に移動ができる。	1	道路の整備促進	町民	短時間で移動ができる。
			2	道路の安全性と利便性の確保	町民	道路を安心して快適に利用できる。
			3			
			4			
			5			

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				実績値	52.9	50.7				
A	町内の道路に不便を感じている町民の割合	%		実績値	52.9	50.7				
				目標値		50.0	49.0	48.0	46.0	44.0
B	道路改良率 都市計画道路改良率	%		実績値	36.8/17.6	36.8/26.3				
				目標値		37.0/17.6	37.0/17.6	37.0/17.6	37.0/17.6	37.0/20.0
C	橋梁長寿命化修繕計画の進捗率	%		実績値	-	0.0				
				目標値		0.0	9.3	25.6	48.8	69.8
D	道路愛護活動(資材支給)を行っている行政区の数	区		実績値	41	44				
				目標値		44	46	48	50	52
E	学校指定通学路の歩道等整備率(簡易整備を含む)	%		実績値	24.7	33.5				
				目標値		36.5	38.4	40.3	42.3	44.3
F				実績値						
				目標値						

**指標設定の考え方と**  
 A) 安全で円滑に移動できていれば、道路に不便を感じる町民の割合が低くなると考えられるため、成果指標とした。  
 町民アンケートにより把握  
 ※町内の道路に不便を感じていますか。→「感じている」、「どちらかといえば感じている」と回答した人の割合  
 B) 数値が上昇すれば、町民が安全で円滑に移動できるようになると考えられるため成果指標とした。道路実態調査による。  
 C) 橋梁長寿命化修繕計画に基づき、計画と実施を比べることで進捗状況を把握することができるので成果指標とした。  
 D) 数値が上昇すれば、実施している団体が増え、資材支給の支援ができたと考えられるため成果指標とした。  
 E) 指定通学路の総延長に対して、整備できた指定通学の距離の割合が多くなれば安心安全に通学が出来るため成果指標とした。

**目標値設定の考え方**  
 A) 不便の内容として道幅が狭いと回答した人の割合が62.8%と高くなっている。しかし、事業の実施が進んでいるため成り行きでは平成29年度まで徐々に割合が下がると想定し、平成23年度実績から10ポイント程度の改善をめざす。  
 B) 猿ヶ京弘岩線と悪戸矢瀬線の完了により改良率は向上する。道路改良率を大幅に向上させるためには、膨大な時間と費用を要するため短期間では困難。今後は、道路の新設よりも既存道路の管理に重点がシフトしていく傾向にあるため、成り行き値を目標値とする。【(道路改良率)県内市町村平均:47.3%(H24)、沼田市:36.0%(H24)、中之条町:36.4%(H24)、片品村:39.9%(H24)、川場村:60.7%(H24)、昭和村:40.8%(H24)】  
 C) 計画的かつ予防的な対応に転換を図ることにより橋梁の寿命を延ばし、安全性の確保と維持管理費用の抑制を図ることを目的として町が管理する道路橋429橋のうち橋長15m以上の96橋を対象とした橋梁長寿命化修繕計画を策定した。修繕計画に基づいて、国の補助事業を採択し、計画どおりに補修工事を実施することを目標値とした。  
 D) 平成24年度では3分の2の行政区が現在資材支給を受けて道路愛護を行っている。更に町民に理解を求め道路愛護を推進していく対策をとり、平成25年度から毎年2地区の実施を目指し、平成29年度までに54区を目標値とした。地区別の活動実績は平成24年度、月夜野地区22/23、水上地区3/17、新治地区19/20となっている。  
 E) 現在指定されている通学路の総延長は25.5kmで、平成24年度末には8.08km、33.5%の整備が完了した。平成25年度から毎年500m、2%強の向上を目指し、平成29年度には11.8km、46.2%を目標値とした。簡易整備とは、幅員が0.75m以上2.00m未満の歩道又は自転車歩道車道が設置された区間、もしくは道路端へのカラー舗装等により歩行空間が明示されている区間。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①道路整備に対して用地の提供や地域の合意形成に努める。 ②地域における道路愛護に努め、簡易な修繕及び維持管理を行う。 ③道路の危険箇所などを通報する。	①計画的に道路の整備を行う。 ②道路の適切な維持管理を行う。 ③橋梁等の長寿命化を進める。 ④道路愛護活動のための資材支給などの支援を行う。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①今後、人口減少が進むことで、これまで道路等の維持管理に従事していた人も少なくなり、維持管理が困難になることが予想される。	①町民の約5割以上が町内の道路に不便を感じているため、住民の期待に十分応えているとは言えない。特に、「道幅が狭い」59.8%、「暗い」48.9%、「歩道がない」40.8%が高い割合となっている。 ②町民アンケートによると、自由記述欄には、道路の拡幅を求める意見や、費用対効果を十分に考慮したうえでの公共工事の実施を求める意見が寄せられている。 ③資材支給を増やしてほしいとの要望がある。

施策	15	道路網の整備	主管課	名称	地域整備課
				課長	増田 伸之

		実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①町内の道路で不便を感じている町民の割合は平成23年度52.9%から平成24年度50.7%と2.2ポイント下がり、不便を感じている町民の割合が低くなった。地区別にみると、月夜野地区が54.6%と最も高く、次に水上地区の52.6%、新治地区43.8%となっている。不便と回答している内容を地区別にみると、月夜野地区で「道幅が狭い」、「暗い」、「歩道がない」の割合が高い。水上地区では「道幅が狭い」、「暗い」の割合が高い。新治地区では「道幅が狭い」、「歩道がない」の割合が高くなっている。 ②道路改良率は、平成22年度36.8%、平成23年度36.8%、24年度36.8%と平成22年度から横ばいである。町道の総延長が長いため、道路改良は進めているものの改良率に変化が現れない。 ③都市計画道路の改良率は、平成23年度17.6%から平成24年度は26.3%と8.7ポイント上昇した。平成24年度に真政悪戸線、悪戸矢瀬線の事業が進んだためである。 ④道路愛護活動を行っている行政区の数は、41区から平成24年度44区に増加した。水上地区の行政区が資材支給を受けて活動したためである。 ⑤通学路の歩道等整備率は、24.7%から33.5%と8.8ポイント上昇した。
	② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①県内市町村における道路改良率の平均値は平成24年度47.3%であり、みなかみ町の36.8%を10.5ポイント上回っている。道路改良率は道路延長が短く人口が集中する都市部で高い傾向にある。また、近隣市町村との改良率と総延長の比較では、みなかみ町の改良率が36.8%（総延長1128.6km）であるのに対し、沼田市36.0%（1390.9km）、中之条町36.4%（707.6km）、片品村39.9%（363.6km）、川場村60.7%（158.7km）、昭和村40.8%（535.8km）となっている。（平成24年4月現在） ②近隣市町村との学校指定通学路の歩道等整備率は、みなかみ町の整備率が24.7%（総延長25.5km）であるのに対し、沼田市12.5%（66km）、中之条町21.5%（20.9km）、片品村0%（0km）、川場村23.5%（6.8km）、昭和村21.2%（16.5km）となっている。（平成23年度）
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	①町民アンケートによる「町内の道路で不便を感じている町民の割合」は平成23年度から2.2ポイント下がり50.7%になったが、目標の50.0%には達しなかった。 ②道路改良率は町道の総延長が長いため、道路改良は進めているものの前年度と変わらない36.8%となり、目標値の37.0%に達しなかった。 ③都市計画道路改良率は、真政悪戸線、悪戸矢瀬線の事業が進み（改良延長631.4m）8.7ポイント上がり26.3%となり、目標の17.6%を上回った。 ④道路愛護活動（原材料支給）を行っている行政区の数は、平成23年度から3地区増え目標値と同じ44地区となった。 ⑤学校指定通学路の歩道等の整備を1.78km実施したが、平成24年度内に完了を予定していた駅坂線の事業が繰越となったため実績値が33.5%となり、目標値の36.5%に達することができなかった。
成果実績に対する総括	①町道悪戸関口線関口橋橋梁整備工事が完了した。 ②入須川師田線の改良工事が完了した。 ③勝浜2号橋橋梁架替工事が完了した。 ④狭あい道路整備事業の坂下2号線、下牧原組線、建明寺線が完了し稗田線の事業が進んだ。 ⑤一般国道17号羽場地区の歩道改修事業が完了した。 ⑥集中豪雨にて被災した道路の復旧作業を迅速に行うことで、更なる被害の拡大を防止することができた。 ⑦真政悪戸線、駅坂線及び悪戸矢瀬線の事業が進んだ。 ⑧橋梁の長寿命化修繕計画に基づく補修工事を行うための予算の確保や工事を着手するうえで群馬県建設技術センターとの協議を進めることができた。 ⑨原材料購入事業は、町で購入した資材を地域に提供し地域が労務を負担することで、町道の修繕整備を進めるとともに、町民の道路愛護意識を醸成した。 ⑩道路構造令を町で条例として制定した。 ⑪国道291号の上毛高原駅と水上間の拡幅改良と湯曾管橋の架け替え事業が進んだ。 ⑫新三国トンネルの事業着手に向け、保安林の解除、所管替え（林野庁から国土交通省）等の手続きが進んだ。 ⑬主要地方道渋川下新田線の上津地区と師田地区の改良事業が進んだ。		

		基本事業名	今後の課題	平成26年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1	道路の整備促進	短時間で移動するために、都市計画道路の早急な整備が必要である。	用地買収を早期に行い、計画されている区間の工事を進める。
	2	道路の安全性と利便性の確保	道路の狭隘部分や道路構造物等の老朽箇所の点検、維持修繕等の迅速な対応を進める必要がある。	①布施須川線、四ッ谷橋線、後閑師線、戸谷倉線の事業を進める。 ②橋梁長寿命化修繕計画に基づき真政橋、白狐沢大橋、河鹿橋の補修を行う。 ③橋梁の点検、道路パトロールの強化を行う。
	3			